



ひまわりホール アートラボ特別講座

ドイツ・チェコ・日本の 人形劇人と考える 「新しい」人形劇

モノ/ヒト/ガタ/カラダ/アートを学ぶ舞台人のためのラボ「ひまわりホールアートラボ」。その特別講義を、人形劇の本場で活躍する方々をお迎えし、行います。受講生以外もどなたでもご参加いただけます。ぜひ貴重な機会をお見逃しなく!

人形劇はどんどん自由に、どんどん多様になっています。人形造形の主流はもはや人型や動物型ではなく、木や布や氷のひとかけらだったりします。扱う主題の上でも、昔ながらの童話やドタバタ喜劇だけではなく、政治的・社会的・環境的課題に対して応答責任を果たそうとする作品が大勢を占めるようになりました。

舞台芸術全体を見わたせば、人形劇とその他のジャンルの境界はあいまいさを増しているように思えます。とはいえ、長い長い人形劇の歴史が培ってきた、独自の技術や方法論を捨てて去ってよいわけがありません。人形劇はこの先、どこを向いて進んでいくのでしょうか?

人形劇にとって、めざすべき「新しさ」はどのようなものなのでしょうか?

その問題を考えるために、今回は現代人形劇の多様性を知る3名の人形劇人が、最近見た中で「これは新しい!」と感じた人形劇作品を、3つずつ紹介します。具体的な作品に即しながら、現代人形劇がめざす「新しさ」と、その背景となる人形劇の歴史について考える時間にしたいと思います。

●登壇者プロフィール

 <p>オンライン登壇</p> <p>マシャ・エルベルディング ドイツ Mascha Erbelding ドイツ・ミュンヘン市立博物館人形劇部門ディレクター。国際人形劇フェスティバル「Wunder.」、0～5歳児向けフェスティバル「KUCKUCK」ディレクター。人形劇専門誌『double』の編集委員。 https://www.muenchner-stadtmuseum.de/</p>	 <p>ヤクブ・ホラ チェコ Jakub Hora チェコ・ピルゼン市立アルファ劇場代表。国際人形劇フェスティバル「Skupova Plzen」ディレクター。チェコ UNIMA 及びチェコ ASSITEJ 委員。 http://www.divadloalfa.cz/index.php/cz/</p>	 <p>山口遥子 日本 Yoko Yamaguchi 独立行政法人日本学術振興会特別研究員(PD)、人形劇団ブーク国際部、早稲田大学非常勤講師。人形劇分野の国際的活動を支援する NPO 法人 Deku Art Forum 理事長。 https://www.dekuart.org/</p>
---	---	--

2023年 1月6日(金) 19:00～21:00

●参加費：1000円



●お申し込み 愛知人形劇センター HP のフォーム (右記 QR コード) よりご予約ください。

●定員：63名

●会場



損保ジャパン人形劇場

愛知県名古屋市中区丸の内 3-22-21 損保ジャパン名古屋ビル 19 階

●地下鉄名城線・桜通線「久屋大通」 1 番出口から西へ 200m

●地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」 4 番出口から東へ 300m

●主催・お問い合わせ【特定非営利活動法人 愛知人形劇センター】

☎ 052-212-7229 (平日10:00～17:00) ✉ mail@aichi-puppet.net 🌐 <https://aichi-puppet.net/>

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 3-22-21 損保ジャパン名古屋ビル 8 階

